

生き活きまちづくりレポート



市議会議員 つつ木みゆき

6月議会 一般質問

つつ木みゆきの一般質問

コロナ禍でも 適正な介護認定を!

「介護」誰もがいつか直面するかもしれない問題です。2022年日本の100歳以上の人口は8万人を超えています。海老名市でも高齢化率が2021年1月で24.7%になっています。長生きをすることはとても喜ばしいことですが、その反面介護の時間は長くなっています。突然介護を担うことになった場合、私たちはどのような知識を持ち備えておけばよいのか? コロナ禍で介護認定に不備が生じていないか質問しました。

保健福祉部長答弁 介護認定については個に応じた介護サービスを過不足なく利用されるように、申請者一人ひとりの状況を訪問調査などで的確に判断することが重要。そのために国からの通知などに基き感染症対策を講じて認定調査を行っています。介護認定業務についてはコロナ禍でも大きな影響はなく今後も認定に遅れが生じることの無いようしっかりと取り組んでいきます。

国の通知ではコロナ禍で「面会が困難な場合更新申請を12か月延長する」「窓口の申請によらず電話での相談や郵送での申請を行う」「訪問調査に懸念を示す場合は必要に応じた暫定ケアプランの活用が可能」などが示されています。海老名市でも国の通知に基づきしっかり対応していることを確認しました。

「介護休暇について」

「介護休暇」の普及率は2019年の調査において全国で1.3%、働きながら介護をしている90%以上の方が「介護休暇」の制度を利用しておらず、介護を理由に離職する人は2017年以降5万人を超えています。「介護休暇」を取得するための環境の整備が急がれます。

本市職員の「介護休暇」取得に向けて「啓発活動」「庁内ルール」「相談員配置」など必要な対策を考え、介護を行う人が多様な働き方を選べる職場作りを自治体が先頭になって取り組んでいくよう要望しました。

地域ぐるみで子どもたちの

「しあわせ」を 育むための

「学校応援団事業」に!



学校応援団は海老名市の小学校13校にそれぞれ13の組織としてあり、地域住民が学校を支える様々な活動を行っています。

2008年にスタートしてから14年、これまで以上に学校、家庭、地域の連携協力は不可欠な中、年間4,000万円弱の予算を使い機能的で多様な支援活動を推進していくことを目的としている学校応援団事業ですが、内容は14年間ほぼ変わっていません。

予算の9割は「あそびっこ」の人員費として使われ、1割は「えびなっこスクール(学校施設を利用した体験活動)」等に使われています。

今全国的に不登校児が増加していて本市の不登校児も250人を超えています。

子どもの居場所として民間のフリースクール等学校以外の子ども達の居場所が増えている中、学校応援団の事業として行われている「あそびっこ」「まなびっこ」もこどもの居場所になっていますが利用者は少数です。年4,000万円もの予算を使うのならばこれらの居場所の充実とその中での学習支援の充実を改めて考えていくべきです。学校の中に居場所をと言うと「学校自体がトラウマになっている子どももいる。学校の中の居場所作りは無理ではないですか?」との返事が返ってきます。それでは、行政は学校がトラウマにならないような対策を真剣に考えてきたのでしょうか?

学校が子どもを中心とした様々な人のしあわせの拠点になるようお手伝いをするのが応援団の本来の姿ならば、学校応援団は一度立ち止まり時代に応じて見直すべきです。



気になる新聞記事

「排出ゼロ車参加保留」気候変動対策の目標で日本は!

気候変動対策を話し合った主要経済国フォーラム(MEF)が打ち出した5つの取り組みのうち、「石油・ガス業界の対策」以外の4つの取り組みに日本は参加を保留した。2030年までに新車販売の半数を走行中に二酸化

炭素を出さない「ゼロエミッション車」とする目標や農業分野の対策などが含まれている。

これらの取り組みとは別に温室効果ガスの排出削減の目標についても既に強化したか強化する予定だと表明する国が多い中、

日本は削減目標の引き上げの意向を示していない。COP27(国連気候変動会議)を控えて日本の姿勢が問われそうだ。

SDGsを推進といいながら気候変動の対策までも世界から遅れてしまうのか?

オーガニック給食

5/29(日)ピナレッジでオーガニック給食への輪を広げるために、映画「いただきます2」上映会を開催しました。誰もが、食事は安全で安心できるものが食べたいと思うはず。そして作っている人も、食べる人もハッピーになれる農業を実践している場所が日本にも増えてきているのです!この映画は千葉県いすみ市が有機農業者ゼロから、小中学校給食のお米を100%有機米にすることに成功した様子をととても分かりやすく伝えてくれていて、発酵の世界、微生物の大切さ、オーガニックな作物と健康は直結していることなどが、美しい映像とともに綴られています。給食を変えたことで、子どもたちがみるみる健康を取り戻していく様子も。

今の日本は世界でトップレベルの農薬使用量。除草剤でアレルギーや感染症にかかる子どもが増えていること、残留

農薬が胎児の脳に影響があることが分かっています。除草剤販売禁止の国が増えてきて、今世界中でオーガニックの波が高まっています。

食べる人が増えればオーガニック農地も増え、環境にも優しい循環が生まれます。給食をオーガニックにすることは日本の未来の農業を、そして子どもたちの健康を考えることだと思います。

オンライン上映会またやりますよ!

「いただきます2オーガニック給食編」

8/28(日) 13:15 ~ 15:00

ピナレッジ(301) 参加費1,000円

15:00 ~ 監督&ゲストのトークショーあり
たくさんの方に観て頂き、オーガニック給食への輪を広げていきたいです。

問い合わせ先(オーガニック給食を実現する会 樋渡080-3396-7657)



未来への責任

2月24日、軍事大国ロシアが隣国ウクライナに軍事侵攻し、長期化しています。多くの国民が日常生活を奪われ、約700万人が難民となり、罪のない犠牲者や国内の壊滅的なダメージは計り知れません。また、ロシアに穀物の輸出を止められ飢餓に瀕する国もあり、世界中に深刻な影響を及ぼしています。

日本はアメリカの核の傘下にあり、いつ同盟国として戦争に巻き込まれるか決して他人ごとではありません。自民党は一刻も早く憲法を改憲して、アメリカの軍事的要求に応じられるよう準備しようとしています。戦後の日本はこれまで憲法9条により平和が堅持されてきました。だからこそ改憲への動きは阻止しなくてはなりません。私たちは「憲法改悪反対の署名活動」にも参加してきました。未来への責任として、日常生活が再び奪われない社会を目指して活動していきます。(齊藤)



お知らせ

平和ってなんだろう? ~戦争体験を聞いて考えよう~

ロシアのウクライナへの軍事侵攻は、世界中に戦争への危機をもたらしています。日本も77年前には米英と戦争をし、多くの市民が犠牲になりました。2度と戦争を起こさないために、体験者のお話を聞いて、平和について考えましょう!次代へ語り継ぐために、子育て世代と企画しました。

日時: 8月23日(火) 9:45 ~ 11:30 (開場9:30)

場所: 海老名市文化会館120サロン 入場料: 大人200円(高校生以下無料)

語り部: 幼児期の疎開...水本晶子さん

母の東京大空襲...三部孝子さん

*キッズゲルニカの絵(ピカソ反戦絵画と同寸、子ども達の平和への思いを絵にしたもの)を展示予定。(市民発・平和の会 西田)

フィンランドってどんな国? 「えびなえんぴつつ会の」第3回出前講座より

フィンランドの教育目標は社会参画する大人の育成、誰一人残さないことを理念とする。やる気が起きるのを待つ、できない子にこそ手厚い見守りを、競争より協力という考えを国民が共有し、「競争をやめたら学力が世界一になった」ということだ。博士課程まで教育費は無料、教材費も給食費も無料。社会全体に「若い人を信じる」という風潮がある。大きな選挙の前に小・中・高校で模擬選挙を実施し結果を公表する。結果、国政の投票率は71.4% 世界一若い女性首相、大臣は女性の方が多く、5政党の党首は全て女性、内4人は30代で子持ち。10代から政治関与が盛んなので若い政治家でも未熟とは言えない。森と湖が多く自然を愛する国民性、太陽が一番という価値観なので素朴な幸せを良しとする。食事はシンプル、生活は質素。足るを知るということか。高福祉・高負担だが、困った時に国が必ず支えてくれるから文句は出ない。貯金の必要もない。世界大戦の後、福祉国家を目指したフィンランドは日本とは全く違う方向へ進んだ。豊かな資源はなく、資源は人であると定め、無理なく手厚く国民を育てたのだ。シャイで寡黙。日本人に似ていると言われる国民性だが、こんなにも違ってしまった国のあり様に言葉もない。(廣田)

報告

23th

永池川 川歩き

5月8日(日)コロナ禍で2年ぶりの開催となりました。参加者は大人13名子ども9名で、美化センター付近を水生生物(モクズガニ・ヤゴ等11種、アブラハヤ・オイカワ等8種)を採取し、ゴミ拾いをしながら川の中を歩きました。参加者が川に関心を持ち環境について考えてくれればと思います。(伊藤)

お詫び: まちづくりレポート122号に5月8日(日)を(土)と誤記掲載してしまいました。

●つつ木みゆきのお話タイム●

- ▶ 8月3日(水) 13:30 ~ 15:30 国分北集会所
- ▶ 8月4日(木) 10:00 ~ 12:00 社家コミセン

このほかにも開催する場合は、地域にチラシでお知らせします。議会後には地域に向いてコミセンや個人宅などで議会報告会を行っています。問い合わせ先: つつ木 046-234-3264

編集後記 半年の間に孫が二人生まれた。誕生は嬉しいのだが、これからの厳しい時代を生きていくのかと思うと心が暗くなる。気候、食糧、平和...戦争が一番の環境破壊だ!世界中の子ども達の未来に幸あれ!と願う。(神崎)

*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。お手伝いしていただける方を募集しています。事務所までご連絡ください。